

グルジア政治・経済 主な出来事

【2013年10月14日～10月20日】

[当地報道をもとに作成]

平成25年10月23日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼ロシア連邦国民の財産権の保護(17日)

・アブハジア戦争前までアブハジア内にロシア連邦国民が持っていた財産に係る問題を検討する「ロシア連邦国民の財産権に関する委員会」は、2009年以降119件の申請を受理したことを明らかにした。補償金の支払いや所有していた住居と同等の住居の提供などの補償手続きが行われている。

▼特殊医療についてのロシアの支援(18日)

・モスクワを訪れたマルシャン・アブハジア「保健大臣」とカグラマニャン露連邦保健省次官とが、ハイテク医療を含む特殊医療支援に係るロシア・アブハジア間の合意に署名。

【南オセチア】

▼スルコフ露対アブハジア及び南オセチア社会・経済関係大統領顧問およびヌルガリエフ露安全保障会議副書記が南オセチアを訪問(15日)

・スルコフ氏は露大統領顧問に就任してから初めての南オセチア訪問。ティビロフ「大統領」と投資プログラムの実施およびインフラ設備の整備について会談。ティビロフ「大統領」は「南オセチアの優先的な目標の一つは関税同盟への加盟である」と発言。会談後、ツヒンヴァリ市内の劇場や「政府庁舎」などの建設状況を視察。ヌルガリエフ副書記はアハルゴリ地区を視察。

▼第38回IPRM会合(18日)

・建設的な雰囲気の中で、拘束者・行方不明者の問題や障害物の建設が付近の住民にもたらす影響などが議論された。最近のドヴァニ村の状況について、EUMMおよびOSCEの代表者が全ての当事者に自制を求めた。
・次回のIPRM会合は11月15日に予定されている。

2. 外 政

▼ペトリアシヴィリ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣がブリュッセルを訪問(14日)

・ヴェルシュボウ NATO 副事務総長らと「国境化」などのロシアからの圧力について触れつつ、グルジアのNATO加盟の見通し、選挙前の政治状況について議論。「ヴェ」副事務総長はグルジアのNATO加盟に対する支持を約束。16日にはアパトゥライ NATO 事務総長コーカサス・中央アジア担当特別代表と会談。
・17日、独マーシャルファンド主催の討論会「グルジア

の欧州・欧州大西洋との統合は続くか？」に参加し、講演。討論会にはアバシゼ対露関係特別代表も出席。

▼国連総会第1委員会第6回会合でイムナゼ国連大使が被占領地域の状況を説明(19日)

・国土の20%が占領下にあり、増大しつつあるロシア軍の存在は国際法および停戦合意の明白な違反であると主張。被占領地域に関する国際的なメカニズムがなく、国際社会が住民の人権を守らねばならないと訴えた。

▼サーカシヴィリ大統領がマルテンス前ベルギー外務大臣・欧州人民党党首の葬儀に出席(19日)

・サーカシヴィリ大統領は「グルジアの独立と主権が危機にあった困難な時に彼は欧州で最も信頼のおける友人であった。彼の支援はグルジアの現代史において大きな役割を果たした」とコメント。

3. 内 政

▼選挙期間の国内状況に関するOSCE/ODIHRの中間報告(14日)

・候補者の登録は透明な手続きによって行なわれ、中央選挙委員会は効率的に機能していると評価。
・昨年10月の議会選挙と比べ、選挙運動が非常に穏やかであり、メディアも二極化していないと分析している。

▼次の首相に関するイヴァニシヴィリ首相の発言(14日)

・イヴァニシヴィリ首相辞任後の新しい首相は、「与党連合「グルジアの夢」内の合意を経て、大統領選挙の1週間後には明らかになるだろう」と発言。
・カラゼ副首相によれば、新首相についてはこれまで政府内で議論されていない。

▼ケゼラシヴィリ元国防大臣がフランスで拘束される(14日)

・「ケ」元国防大臣は2件の汚職事件に関連して国際手配されていた。エクス・アン・プロヴァンス市裁判所が「ケ」元国防大臣の拘束を決定。アルバニアに向かう航空機に搭乗しようとしていたところをニース空港で拘束。検察は送還を求める方針。

・「ケ」氏は2006年から2008年まで国防大臣を務めた。2013年1月には1230万ドルの収賄で、2013年2月にはウグラヴァ・トビリシ市長とともに公的基金の略取および資金洗浄に関与したとして起訴された。

▼占領線付近に位置する村々が直面する問題を扱う政府委員会の会合(16日)

・政府委員会は10月1日に設置され、ナルマニア地域発展・インフラ大臣とザカレイシヴィリ再統合問題担当国

務大臣が共同議長をつとめる。これまで占領線付近に位置する約40の村々を視察した。

・16日の委員会で、「ナ」大臣は緊急に対処が必要な事項として、ガス設備や電気メーターの整備、薪の支給などを挙げた。診療所の建設や占領線付近の村々出身の学生の学費の支給などを含むプログラムには約2千万ラリが必要と概算した。

▼決選投票についてのイヴァニシヴィリ首相らの発言(17日)

・「決選投票が行われるとは想像できない。もし決選投票になれば、私はマルグヴェラシヴィリ氏に参加しないよう助言する」「もしマルグヴェラシヴィリ氏の得票率が60%に達しなければ、私にとって侮辱的な結果である。そうなった場合には、(首相辞任後に社会活動に身を投じるとする)今後20年間の私の計画に対する熱意が減じらるだろう」と発言。

・同日、マルグヴェラシヴィリ氏も「もし決選投票になった場合には参加しない」と述べた。

・ロムジャリア NGO「公正な選挙」代表、大統領選候補者のバクラゼ前国会議長、ブルジャナゼ民主運動・統一グルジア党首らは、首相の発言は有権者に対する圧力であるとして批判。

・18日、ウスパシヴィリ国会議長は、首相や「マ」氏の発言について、「決意の表明に過ぎず、何らかの計画や決定を意味するものではない」として、与党連合「グルジアの夢」はこのような決定をしていないと述べた。しかし、その後「マ」氏は再び決選投票には参加しないと明言している。

▼ジヴァニア元首相の死亡事件の再調査(17日)

・2005年2月に起きたジヴァニア元首相の死亡事件に関し、クビラシヴィリ主任検察官は再調査を進めていることを認め、「新たな証拠や判明した事実があるが、事件の全容が明らかになるにはまだ遠い」と話した。

▼国会のトビリシへの再移転に関するウスパシヴィリ国会議長の発言(18日)

・ウスパシヴィリ国会議長が「来年の春季国会はおそらくトビリシで行なわれるだろう」と発言。トビリシへの再移転後のクタイシの国会議事堂の用途は検討中であり、一つの可能性として、「コーカサスのみならず中央アジアも管轄するような重要な国際機関の地域本部」として利用されるとよいと述べた。

・国会の移転には国会議員の3分の2(新憲法の発効後は4分の3)の支持による憲法改正が必要であるが、野党「統一国民運動」は強硬に反対している。

・ウスパシヴィリ国会議長によれば、トビリシの国会議事堂の改修が進められており、2014年2月までには完了する予定。

▼中央選挙委員会が大統領選挙の有権者名簿を確定(18日)

・中央選挙委員会は大統領選挙で投票できる有権者の数を3,537,719人と発表。昨年10月の議会選挙より76,132人減。中央選挙委員会によれば減少は主に実際とは異なる住所に登録してあった有権者を削除したため。

・外国36か国に52の投票所が設けられる。外国で投票する有権者は48,458名。そのうちアフガニスタンに駐留するグルジア人兵士1,560名は10月20日に期日前投票を行なった。

▼大統領候補者のTV討論(18日)

・公共TV放送上でマルグヴェラシヴィリ氏(グルジアの夢)、バクラゼ氏(統一国民運動)、タルガマゼ氏(キリスト教民主運動)、ハラティシヴィリ前中央選挙委員会委員長の4名の大統領選候補者が討論。予め渡されていた質問に対して各候補者が答えた後、候補者同士の質疑応答が行われた。

・対露関係について、「バ」候補はロシアとの対話を支持するが、いかなる「弱さ」も見せてはならないとして現政府の方針を批判。「経験の乏しい人物を大統領にすることはできない」と述べた。

・アブハジア・南オセチア問題に関して、「タ」候補はロシアに対する国際場裡での更なる圧力を、「ハ」候補は両地域の「政府」との交渉を主張。

・大統領の役割について、「バ」候補が政府の政策と約束の実行を監視することだと述べたのに対して、「マ」候補は新憲法下の大統領の役割は国内のバランスを取ることであるとして、政府との協力のし易さをアピールした。

「タ」候補は大統領就任の暁には国会の解散総選挙が実施されるよう求めると述べた。

4. 経 済

▼2013年9月の工業製品生産者物価指数(15日)

・前月比0.4%減、前年同月比4.6%減。

▼SOCARがグルジア国内の宗教施設に1年間無料で天然ガスを供給(19日)

・グルジア正教会総主教府とSOCARの間で合意に調印。調印式にはカラゼ・エネルギー・天然資源大臣も出席。
・アリエフ・アゼルバイジャン大統領の命令で、2013年11月1日から1年間、(アルメニア教会を含む)グルジア国内の全ての宗教施設にガスが無料で供給される。

3. その他

▼バトゥミで強風による被害(19日)

・強風による波で道路や海岸沿いの建物が損傷。アナニゼ・バトゥミ市長によれば被害額は100万ラリ以上。